図書館貫井北分室 YA コーナーへようこそ！

KITAMACHI ユース vol.65

今回のテーマ　ミュージアム

日本では美術館と博物館に分かれていますが、海外ではまとめてミュージアムと呼ぶことが多いようです。そこでは人の手が作ったアートも、自然界の珍しい物も歴史的な資料も、集めて大切に保管され、広く人々に公開されています。少し図書館にも似ていますね。さてさて、今日はどの作品に会いに行きましょうか…？

書影の下［　］内は請求記号を表します　本を探すときの参考にして下さい

［K 94/セ］

『カンヴァスの向こう側』
フィン・セッテホルム/著
評論社/刊　2013 年

絵を描くのが大好きな 12 歳のリディア。美術館でつい絵に触ってしまうと、その絵が描かれた時代にタイムスリップ！絵を通して次々と時代を遡り、レンブラントやダリなど画家と出会って助けてもらう羽目に…。鍵となる絵を画集で見てみるのも面白いかも。

［913.6/ニシヤ］

『小説 日本博物館事始め』
西山ガラシャ/著
日本経済新聞出版社/刊 2017 年

明治維新の後、薩摩出身の町田久成は、英国留学中に見たミュージアムを日本にも作りたいと考えます。動物園も植物園も美術館もまだ無かった時代。政争の中で、貴重な文化財を残そうと奔走する久成の姿と、上野の東京国立博物館誕生を描いた歴史小説です。

［YA 069］

『ミュージアムを知ろう』
横山佐紀/著
ぺりかん社/刊　2020 年

展示品を見にいくと、その時々で印象が変わることがあります。年齢や状況、一緒に見る人などに影響を受けるのでしょうか。あるいは展示の仕方に秘密が？ミュージアムを知ることで、私たち自身のモノの見方についても、考えが深まりそうですよ。

［706］

『展覧会をつくる』
足澤るり子/著
柏書房/刊　2010 年

フランス在住の著者の仕事は、展覧会のコーディネーター。学芸員や美術品輸送専門員、カタログ制作や「クーリエ」と呼ばれる人達など、様々なプロの仕事が集まって初めて１枚の絵が美術館に届き、無事に展覧会が開けるのだそうです。その緊張感たるや！

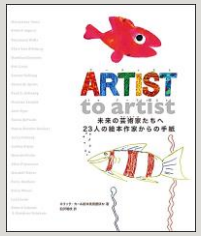
『ぼくたちの骨』　樫崎茜/著　講談社/刊　2012 年

陸上部の千里は、足裏の痛みが悪化して休部中。新聞部の春人につき合い取材に行った動物園で、１匹のチーターの剥製（はくせい）を見つけます。その不恰好で不自然な姿に驚いていると、剥製を博物館で修復する話が持ち上がります。あのチーターだって、もっともっと走りたかったにちがいない。「この手であのチーターを修復することができたなら。」「そう思うや、いつにも増して足がうずいた。」
博物館のバックヤードの、さらに向こう側に思いをはせたくなるお話です。

［YA 913 /カシザ］

『 ARTIST to artist 』
エリック・カール絵本美術館/ほか著　東京美術/刊　2017 年

安野光雅、エリック・カール、ロバート・サブダ、モーリス・センダック、レオ・レオニ…。世界で活躍する 23 人の絵本作家が、芸術家になることを夢みている人にあてて綴った手紙たち。子ども時代の作品やアトリエ、愛用の画材などを紹介するとともに、絵本作家になるまでの道のりを語ってくれます。作家自身の手による自画像と、実際の写真を見比べても楽しい♪



［YA 726］

きたまち YA ひろば へ ようこそ！

今年度の〈ひろば〉はあと３回！　気軽に遊びに来てくださいね

- 11/19(日) 作って語ろう！あの本のホットケーキ
  （ホットケーキが出てくる絵本をお互いに読み合って、ホットケーキを焼いて語りあう♪）
- 12/17(日) 熱くなろう！冬のボードゲームまつり（みんなでゲーム♪）
- ３/17(日) きたまち YA ひろばメモリアル 2023（一年の振り返り♪）

● 令和５年 11 月 15 日発行 ●
編集・発行 ＮＰＯ法人市民の図書館・公民館こがねい ＹＡ・若者コーナー担当
http://www.ntk-koganei.org/　★HP・ツイッター(X)も のぞいてみてね！
公民館 TEL:042-385-3401 ／ 図書館 TEL:042-385-3561
〒184-0015　東京都小金井市貫井北町１－１１－１２　貫井北センター